

第 20 回 丹沢大山自然再生委員会（令和元年度総会）  
議事録

日時： 令和元年 6 月 28 日（金） 13:30～16:30

場所： 自治会館 3 階会議室

○事務局 十鳥課長

それでは、定刻となりましたのでこれより第 20 回丹沢大山自然再生委員会を開会致します。開会に先立ちまして、数点ご説明をさせていただきます。お手元にお配りしてあります委員会の名簿ですが、代表の方の交代や人事異動などによる変更につきましては、事前に聞き取りをさせていただきまして、できる限り修正をさせていただいております。もし直っていないようなことがありましたら、恐れ入りますが後ほど事務局までご連絡いただきますようお願い致します。それと名簿に出席とありますが、原委員と富村委員は欠席ということでご連絡いただいておりますので、訂正をお願い致します。また、ウエイズグループ 長島委員の代理出席予定の橘田さんは少し遅れるということでご連絡いただいております。なお、本日の資料につきましては事前に郵送させていただいておりますが、本日お持ちでない方や不足の資料等がある方は事務局までお申し付けください。また、事前送付しました資料のうち、出席者名簿と **総会資料 3** の名簿については、一部修正がありましたので机上に修正版を置かせていただきました。後ほどお手数ですが差替えをお願い致します。

では、ここからの議事進行につきましては、羽山委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

○羽山委員長

皆様こんにちは。大変暑い中、たくさんの方々にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

この再生委員会を振り返りますと、平成 18 年に第 1 回が開催されまして、このたび 20 回目を迎えることとなりました。年数で言うと 13 年目となりますが、丹沢大山の自然再生に向けて委員会の活動は着実に進捗してきたように思います。また、新しい取組みも少しずつ増えてきていると思います。お手元に緑色の冊子があるかと思いますが、たとえば昨年度の活動報告会では、新たな形でやらせていただきまして、この委員会だけではなく、参加者多数の方々から大変高い評価をいただきました。特にこの委員会では高齢化が問題になっていましたけれども、若手の研究者や学生、色々な一般市民の方々にポスター発表等をしていただきまして、活発に議論できたと思っております。後ほど今年度のことにつきましてご検討いただきますが、こういった形で今まで来られましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

本日の委員会ですが、例年どおり昨年度の事業実績や決算等を審議していただきます。今年は役員の改選がございますので、その点につきましてもご検討よろしくお願い致します。その後、この委員会として今まで検討してきました 5 つの課題への対応状況、それから、第 3 期の丹沢大山自然再生計画が中間点検評価の段階になりましたので、これにつきましてもご報告をさせていただきたいと思います。各専門部会からは昨年度の活動報告と活動報告会についてご報告して、今年度の事業につきましてご検討いただきたいと思います。最後に、丹沢大山自然再生委員会で長きに亘りまして委員長を務めていただ

きました木平先生が、このたび第 29 回「みどりの文化賞」を受賞されましたことをご報告させていただきます。また、再生委員会委員の鈴木雅一先生は令和元年度土砂災害防止功労者ということで国土交通大臣から表彰されました。大変おめでたいことだと思いますので、また後ほどお二方からコメントをいただきたいと思います。以上、本日は非常に内容が多くなっておりますが、出来るだけ後半の報告事項の中で色々と議論をしたいと思っておりますので、円滑な議事の進行にご協力よろしくお願い致します。

それでは、早速ですが議事に入りたいと思います。議案の（１）平成 30 年度事業実績・決算について、事務局からご説明お願いいたします。

**【議案 1】 平成 30 年度事業実績・決算について**

- ・平成 30 年度事業実績報告（企業等からの寄付報告含む）
- ・平成 30 年度決算及び監査報告

<事務局より総会資料 1-1、1-2 にもとづき説明>

○羽山委員長

小林監事から決算、監査報告をお願い致します。

○小林監事（監査報告）

こんにちは。監事をしております小林と申します。6月17日に会計監査を行いました。平成30年度丹沢大山自然再生委員会収支決算について、その内容及び証拠書類について審査した結果、適正に執行されていることを確認しましたので報告致します。

○羽山委員長

ありがとうございました。今のご報告につきまして、ご質問・ご意見ありましたらお願い致します。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

議案（１）平成 30 年度事業実績・決算について、ご承認いただける方は拍手をお願い致します。

○一同 拍手

○羽山委員長

ありがとうございました。本件はご承認いただいたこととさせていただきます。

寄付等ご協力いただきましたウエイズグループ様、サントリーホールディングス株式会社様、丹沢自然保護協会様、イベントに会場してご寄付いただいた多数の方々に、この場をお借りしましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

続きまして、議案（２）各専門部会の設置要綱の改正について、事務局からご説明お願い致します。

## 【議案2】 各専門部会の設置要綱の改正について

<事務局より総会資料2-1～3にもとづき説明>

○羽山委員長

ありがとうございました。部会によっては頻りに開催されないということもありますので、このように対応させていただきたいというのが事務局からの説明ですけれども、これについていかがでしょうか。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

ご承認いただける方は拍手をお願い致します。

○一同 拍手

○羽山委員長

本件は承認されたと致します。

続きまして、議案(3)役員・幹事の改選についてです。

## 【議案3】 役員・幹事の改選について

○羽山委員長

これにつきましては、**総会資料3**が委員会の名簿となりまして、各部会の構成メンバーと役員・幹事には氏名の右側に二重丸等が付いていますが、この役員の方々の改選の年が本年に当たります。役員というのが、委員長・副委員長・会計監査の監事です。この役員の選任については、委員の互選となっておりますので皆様にお諮りしたいと思います。いかがでしょうか。

○小林委員

私は現監事の小林と申します。都合により退任させていただきたいです。後任の監事には、ウエイズグループの長島委員を推薦したいと思います。よろしく願い申し上げます。

○羽山委員長

先ほど事務局からご紹介のありましたとおり、長島委員の代理で橘田さんがお越しになる予定だったのですが若干遅れて来るとのことでしたので、もし何か伺っていれば事務局からご説明お願い致します。

○事務局 加藤

監事の件に関しましては、ウエイズグループ様からご内諾いただいております。

○羽山委員長

そうしましたら、小林監事から長島監事へ交代ということでご提案がありました。委員長・副委員長についてはいかがでしょうか。

○鈴木委員

現在の羽山委員長・久保副委員長に役員を引き続きお願いしたいということをご提案させていただきます。

○羽山委員長

他にご意見よろしいでしょうか。久保副委員長はいかがですか。

○久保副委員長

大丈夫です。

○羽山委員長

そうしましたら、ご提案いただきました委員長・副委員長は留任ということでいかがでしょうか。

○一同 拍手

○羽山委員長

ありがとうございます。引き続き務めさせていただきます。

続きまして、各専門部会の幹事の改選ですけれども、これは事務局からご説明お願い致します。

○事務局 十鳥課長

先ほど2つ目の議事におきまして、各部会の設置要綱の改正についてご承認いただいたことから、設置要綱の施行日が本日となります。各部会長・副部長におかれましては、任期が本日までとなります。県民事業専門部会につきましては、今年3月に開催された部会の際に部会長の交代について検討されまして、久保委員が退任され、代わって丹沢大山ボランティアネットワークの小林委員が次期部会長になることをご内諾をいただいております。ただ、事業計画・評価専門部会と調査専門部会につきましてはそうした検討を行っていないため、部会長・副部長が不在となる空白期間がこのままだと生じてしまう事態となります。そこで、対応案を事務局から2つ出させていただきたいと思っております。まず1つ目の案ですが、事業計画・評価専門部会と調査専門部会の部会員の皆様におかれましては、本日、大変急ですがこの場で部会長・副部長を互選していただくというものになります。2つ目の案としましては、事業計画・評価専門部会と調査専門部会の設置要綱の施行日を本日はせず、次の部会開催日にするというものです。この他、委員の皆様からの対応案もあるかと思っておりますので、この場でご意見・ご検討をいただきたくお願い申し上げます。

○羽山委員長

ありがとうございます。県民部会につきましては、部会長は小林委員が選任されたということです。

事業評価部会と調査部会は先ほどの名簿をご覧になっていただきたいのですが、2案出ましたが部会員の方はほとんど出席だと思いますので、ここで互選というのがすっきりすると思うのですがいかがでしょうか。鈴木先生いかがですか。

○鈴木委員

はい。

○羽山委員長

羽澄先生いかがですか。

○羽澄委員

それでいいです。

○羽山委員長

そうしましたら議題（3）について整理しますと、監事は小林委員から長島委員ですね。それから県民事業部会の部会長は久保委員から小林委員ということで改選されました。他の2部会についていかがでしょうか。特にご意見なければ現部会長が留任ということによろしいでしょうか。糸長先生よろしいですか。

○糸長委員

はい。

○羽山委員長

では、この場で決めさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、議案（4）調査・研究助成金交付規程及び普及啓発活動推進費交付規程の改正について事務局からご説明お願い致します。

#### **【議案4】 調査・研究助成金交付規程及び普及啓発活動推進費交付規程の改正について**

<事務局より総会資料4-1～4にもとづき説明>

○羽山委員長

ありがとうございます。この調査・研究助成金と普及啓発活動推進費は、委員会として自主的な事業を起こしていこうということで、構成団体の方々を中心としたそれぞれの活動を助成するというところでここ数年の間に始めたわけですが、実際に交付を受けた方々から若干使い勝手が悪いとの指摘を受けまして、今回一部使い道について改正したいという内容となっております。これにつきましていかがでしょうか。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

ご承認いただける方は拍手をお願い致します。

○一同 拍手

○羽山委員長

ありがとうございました。本件ご承認いただきました。

続きまして、議事の最後になりますが、(5) 令和元年度事業計画・予算(案)について事務局からご説明をお願い致します。

**【議案5】 令和元年度事業計画・予算(案)について**

・令和元年度事業計画(案)

・令和元年度収支予算(案)

<事務局より資料5-1~4、6にもとづき説明>

○羽山委員長

ありがとうございました。今の説明に対してご質問・ご意見ありましたらお願い致します。ちなみに

**資料5-2** ですが、これは何校ぐらいの高校が参加されるのでしょうか。

○事務局 赤谷

(実施していた前事業の「やまみち再生体験」は)例年5校ぐらい参加します。

○羽山委員長

これは公募するのですか。

○事務局 赤谷

そうです。その(新人登山大会に参加する高校の)中から何校か選ぶということになります。

○羽山委員長

他にいかがでしょうか。

○羽澄委員

**資料6**のご説明で、収支予算案についての異論はないのですが、参考までに支障がなければ教えていただきたいのが、日本野鳥の会神奈川支部が脱会をされた理由は何ですか。

○事務局 田村

いくつか理由があるということで、1つは日本野鳥の会の資金が潤沢ではないということと、もう1つは中々丹沢で関わる機会がないので退会したいということでした。

○羽澄委員

ありがとうございました。

○羽山委員長

よろしいでしょうか。そうしましたら、議案（5）令和元年度事業計画・予算（案）についてご承認いただける方は拍手をお願い致します。

○一同 拍手

○羽山委員長

ありがとうございました。本件ご承認いただきました。

以上で議事は終了しまして、2時35分から再開したいと思います。

<－休憩－>

### 【報告事項1】5つの課題への対応状況及び第3期丹沢大山自然再生計画の中間点検・評価について

○羽山委員長

それでは後半始めたいと思います。これから先、いくつかご報告の上で色々ご意見いただきたいことがありますので、よろしくお願い致します。

まず1つ目、5つの課題への対応状況及び第3期丹沢大山自然再生計画の中間点検・評価についてとなります。**総会資料7**を広げていただきますと、一番下にスケジュールが書いてあります。そもそもこの丹沢大山自然再生委員会が発足した時点でいくつか大きなタスクがあったのですけれども、その1つの役割として、丹沢大山に係ります自然再生事業について、事業の方向性が委員会として提言した基本的な考え方、基本構想と呼んでおりますけれども、それに合っているか、また、事業の内容が適切か、あるいはそれが充分進捗しているか、そういったことの端的評価も含めまして、中間点検・事業の最終的な評価を定期的に行っていくという活動をしてまいりました。今回第3期はちょうど中間点検の時期になっておりますので、まずは県の事業につきましてご報告をいただきたいと思います。事務局からご説明お願い致します。

<事務局より資料7、参考資料3にもとづき報告>

○羽山委員長

ありがとうございます。再生委員会の取組みと県の再生計画との関連性は、初めての方々には分かり

づらかったかもしれませんが、基本的には二人三脚でずっと良い方向を目指してやってきたと考えております。上の段の再生委員会の取組みを次の計画にどう反映させるか、ちょうど今年意見書としてまとめる段階に入っておりますので、今後活動報告会の場でと書かれておりますが、ぜひそこで取組みの詳細をご報告していただきたいと思っております。その場で意見を出していただきまして、委員会として取りまとめたいと考えております。以上につきまして、ご質問・ご意見ありましたらお願い致します。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

特段なければ、この説明はここで終了したいと思います。

続きまして、(2) 各専門部会の報告・提案について、今の関連となりますけれどもまずは事業計画・評価専門部会からご報告お願い致します。

## 【報告事項2】専門部会の報告・提案について

### ア 事業計画・評価専門部会

<勝山部会長より資料8-1～2にもとづき部会の活動内容を報告>

○羽山委員長

ありがとうございました。今の勝山部会長からのご報告につきましてご質問・ご意見がありましたらお願い致します。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

少し字が小さく書いてあるもので申し訳ないのですが、それだけ多岐に亘ってご検討いただいたということだと思います。そうしましたら次に県民事業部会からご報告お願いしたいと思います。昨年度の部会長ということで、久保委員からお願い致します。

### イ 県民事業専門部会

<久保部会長より資料9-1～5にもとづき部会の活動内容を報告>

○羽山委員長

ありがとうございました。平成30年度の活動報告と今後の取組みの方向性についてご報告いただき

ました。今のご説明に対してご意見・ご質問ありましたらどうぞ。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

よろしいでしょうか。特になければ次に調査専門部会の報告に移りたいと思います。ここからの進行は糸長部会長にお願いします。

ウ 調査専門部会

・平成 30 年度調査部会実施調査報告

<糸長部会長より資料 10-1 にもとづき部会全般の活動内容を報告>

<平成 30 年度 実施調査項目について、佐藤氏及び土井氏(代理：羽山委員長)から背景と今後の計画について報告>

○糸長部会長

どうもありがとうございました。非常に重要なテーマで、心配すればキリがないのですが、一方でしっかりと調査をしてリスク管理しなければならないものだと思います。どうでしょうか。初めて聞かれる方もおられると思いますので、素朴な質問でもいいので、もしあれば。

○鈴木委員

糸長先生のおっしゃったとおりで、深刻な問題かもしれない。けども一方で、こういうことが深刻だということになると、アウトドア活動や若い方のフィールドの色々な楽しみの嗜好などがますます減っていくのではないかという文化的な影響みたいなものが心配なので、そのあたりもやるのであれば今から同時に考えた方がいいと思うのですが、何かコンテンツがあったらお願いします。

○羽山委員長

実は豚コレラもそうですし、たとえば今、日本以外のアジアでは狂犬病が発生していますけれども、逆に今まで日本に蔓延しなかったのが不思議なぐらいです。けどもこういった調査をやる時に、特に行政関係の方からはストップがかかり易く、それは何故かと言うと「出ちゃったらどうするのですか」と必ず言われるからですが、出ちゃったら終わりなんですよ。だから出る前にももちろんそれを食い止める手段を考えないといけないということでやっていますが、おっしゃるように研究と並行してどういうことが今日本以外で問題になっているのか、そういったことを同時に普及啓発しないとこれは片手落ちになるなと思っております。

○糸長部会長

佐藤先生はどうでしょうか。

○佐藤雪太氏

今回の報告では言及していなかったのですが、まず病原体の保有率・確率的なことを申し上げますと、これまで色々なベクター媒介性感染症の調査をしてきた関係で言うと、病原体の保有率というのは非常に低くて、数パーセント、1パーセントいくかどうかというのが、私が対象とした病原体の保有状況なので、100匹捕まえないと病原体を持っているかどうか分からない。感染する確率が非常に難しいという面もあります。ただ、先ほど鈴木先生のご指摘のように、もし出た場合どうするかということに関しては、いたずらに不安を煽るのではなくて、想定される病原体・感染症、それがどういう感染ルートを持っているのか、感染リスクがある動物、そして時期、そういったものを具体的に想定しておいて、それをしっかり啓蒙していくというのもひとつの手かと思っております。そのためにも私たち研究者は、現在の丹沢大山で、そういった病原体が本当にどのくらいあるのか・ないのか、そのあたりをしっかりと調べてきちんと県の皆さんに報告したいと考えています。以上です。

○糸長部会長

ありがとうございました。他にどうですか。

○大黒委員

東京神奈川森林管理署の大黒と申します。私どもは国有林の現場で実際に山に入る機会が多すぎて、去年は九州の林野庁の職員がマダニに咬まれてまして、SFTSで亡くなっていることから、非常に危機感を持っています。林野庁でもとにかくマダニに噛まれない措置、長袖・長ズボン・肌を露出しないということと、咬まれた場合は口部がくっつくということなので自分で取らないで必ず病院の方に受診するようという指導を受けております。非常に危機感を持ってまして、今日はシカの密度との相関性ということで非常に勉強になりました。ありがとうございます。紹介までということですので。

○糸長部会長

猟友会の熊澤委員はどうですか。

○熊澤委員

猟友会で私もしょっちゅうマダニにやられます。後ほど個人的に質問させていただこうかと思っていたのですが、若い頃はダニに食われても一日か二日で痒みも収まったが、近頃は十日から二週間かかってしまいます。毒性が強くなったのか。あるいは私自体の体力が弱まったのか。いかがなものでしょうか。毒性を少し研究していただければと思っています。よろしくお願い致します。

○佐藤雪太氏

ダニは、吸血からお腹がいっぱいになって離れるまで結構時間がかかるので、それは人の何かの要因で変わるかと言うとダニの都合でして、若い頃はもしかしたら早めに離れてくれていたのかもしれないのですが、そのあたりは分かりません。考えられる特性的な面で言うと、ダニが持っている吸血のときに人の身体に注入する唾液、それに対するアレルギー反応があるという話もあるので、そのリスクの高い年齢層がどうなのかは分からないのですが、そういうことも多少あります。

○糸長部会長

一点だけ質問ですが、丹沢は山の高いところから低いところまでありますよね。里山系ともっと上の登山の上の方と、マダニだけで言うと心配度合いというのは、上の方はあまり関係ないなどということはあるのですか。

○佐藤雪太氏

恐らくなんですけれども、リスクということを考えるとダニの分布量ということになると思うので、標高の高いところまでダニの吸血源となるシカとかが入っていれば、ダニは多い可能性があります。当然下の方は、ダニは沢山居やすいです。

○糸長部会長

ありがとうございました。非常にシビアな問題ではあるのですが、別件ですが私は福島放射能のことをずっとやっていますから、事故が起きた時もそうでしたけれども、やはり正確な情報をしっかりと渡して学んでいくことが一番のリスク管理になると思いますので、そういう点では慎重を喫しながら適格な情報とそれについての考えを出していければよろしいと思います。再生委員会は行政の組織とはまた違いますので、行政が出来ないことは、独立性と自主性をもってやっていければいいのではと思っています。

○渡邊委員

今のことに関連して、私もまだ藪の中を歩くのですが、できるだけ接触しないように殺虫剤のようなものを下半身にかけるのですが、その程度のことである程度防止になるのですか。

○佐藤雪太氏

殺虫剤の関係は一応効くとは言われていますので、そういったことをしていただくのは良いと思います。あとはダニに刺されても中々すぐ痒くならず分からないので、お風呂に入る時に見ていただくとか、先ほども東京都の方からありましたけれど、感染リスクもあるので、ダニに咬まれたというのであれば、皮膚科に必ず行くなど、そういったことをしていただければ早い段階だと大丈夫だと思います。

○羽山委員長

よろしいですか。僕自身は実はダニに刺されない体質であまり効かないのです。

それでは、次（3）丹沢大山自然再生活動報告会についてお諮りしたいと思います。

### 【報告事項3】丹沢大山自然再生活動報告会について

<羽山委員長より資料10、参考資料2にもとづき説明>

○羽山委員長

**総会資料 11-1**、**11-2**、それから後ろに**参考資料2**がありますので、これに基づいてご報告をしたいと思います。まず、**総会資料 11-1**で、これは昨年度の活動報告会について要約したものです。昨年度12月15日に日本大学で開催いたしまして、参加者人数が250名、それからスタッフが日本大学と保全センターの方に非常にお世話になりまして、総勢300名近い参加者で大変活発な議論が出来ました。内容につきましては、基調講演が今事務局をやっている田村さんに報告をいただきました。田村さんが日本森林学会賞を受賞されたということで、その受賞内容についてご講演をいただいて、それから3つの分科会に分かれまして、それぞれそこに書いてあります発表件数のおりご発表いただきました。それと別会場でポスターセッションを行って、最後に全員集まったところでまた議論を行ったという流れになっております。詳細については次頁以降をご覧ください。それで**11-2**に参加者に対してアンケートを取っております。このアンケートの内容を簡単にご紹介したいと思いますが、参加していただいた方で「特にどこに関心を持たれましたか」というQ2のところ、基調講演が良かったとか、～分科会が良かったとか、その下には各分科会ごとにどの発表が面白かったか、そういうことを伺っておりますが、見ていただいてお分かりのように、意見の偏りがなく、逆に言うとどれも面白かったという評価だったのではないかと思います。ですからこういった形で多様な活動の内容あるいは調査の内容を色々な方に発表していただくということは、やり方として一つ成果だったのかなと考えております。次の頁に行ってください、Q3「時間はどうでしたか」ということで伺いますと、7割の方が「ちょうど良かった」で、「長すぎた」という方は1割ちょっとだったので、概ねこの時間割というのは妥当だったかと思います。それから一番我々がありがたかったのは、若い20代・30代という世代が合わせて4割近く参加していただいたということで、活気があったように思いました。それから頁をめくっていただきましてQ4にそれぞれ自由記載でご意見を伺いました。色々なご意見をいただいたのですが、その中で私自身が特に次回以降の反省として思ったのが、右頁の8番に「非常に充実していて良かった」と、今までこの方は活動報告会に何回か来られているようですけれども、一番良かったと言っていたことが大変ありがたかったです。それから「学会とかシンポジウムのように敷居が高いようなものではなく」というのがその下の10番のご意見ですけれども、一般の方や団体が気軽に発表報告ができたという評価をいただいて、これは次回以降も引き続きこの形式を取り入れていきたいと考えております。それから一方で、25番・27番の意見は実は口頭でも直接何人かの方から伺いましたけれども、3つの分科会に分けたということによって、どちらも興味あるのに片方しか聴けなかったことが残念だったというご意見を複数いただきました。ここは工夫が必要だというふうに考えています。こういった結果を踏まえまして、次回今年度の活動報告会については、幹事会等で議論しまして叩き台を作成しました。これが**参考資料2**になります。この**参考資料2**をご覧くださいなのですが、今のところ会場の都合ですけれども、12月14日の土曜日、若干早めにスタートをして、というのも前回は分科会を3つに分けましたので、時間の短縮ができたのですけれども、今回は分けないでやってみようということで若干時間を延ばしております。内容ですけれども、11時からスタートして、基調報告を行い、これにつきましては、県の自然再生計画が第4期に向けて評価と見直しの段階に入っておりますので、こういう県の今までの長年の取組みについて実際にじっくり話を聞きたいというご意見がございまして、まずはどなたかに報告をお願いしようと考えております。できるだけ多くの発表をポスターセッションに集約したいと考えておまして、お昼休みを使いながら2時ぐらいまで時間を取って、それぞれ個別に発表していただこうと思います。2時から4時は講演を中心に発表していただく、これは会場を1つにとりまとめてということになります。第3期中間点検評価と先ほど出た5つの課題に対す

る県への提言の叩き台をこの時までには作っていただきまして、この基調講演を受けて、その後に全体討論として、参加者で議論をしてとりまとめをできないかと考えております。今後のスケジュールですが、この活動報告会は今年も実行委員会形式でやろうと考えておりますので、夏休みの間にとにかくどなたでも結構ですので参加していただきまして、その実行委員会と幹事会を重ねまして、そこで方向性や内容を固めていきたいです。9月の段階では、準備に向けての様々な資料作成や調整を行って、10月から広報をスタートするというを考えています。11月にはポスターや要旨集などの事務的なところの準備をして、12月の開催当日を迎えるという流れで今は計画をしているところです。これにつきまして、今日ご参加の委員の方々から色々のご意見を伺いたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

藤崎さん、何かご意見ございますか。

#### ○藤崎委員

今、羽山委員長から概要説明があったのですが、いかに多くの市民の方に参加してもらうか、関心のある人も結構なのですが、少々関心のあるような人にも集まってもらうことが非常に重要じゃないかと思えます。アンケート結果を見ますと、何で知りましたかという部分でも、県の広報・その他紙媒体はいまいちという結果も出ています。やはり紙媒体+αで今流行りの色々な媒体がありますので、それで周知することでしょうけど、私はやはり昔も今も最終的には人から人への口コミでやるのが一番伝わるのではないかと思います。効果というか最後の決断は口コミではないかと思っておりますので、夏から秋にかけての作戦会議で、どういう形でやるのがより有効かというのを取り組んでいただきたい。私もできれば参加したいと思っております。以上です。

#### ○羽山委員長

はい、重要なご指摘ありがとうございました。確かに SNS とか Facebook など色々情報は流れているのですが、意外にポスターとかの紙媒体も多かったですので、このあたりととにかく多面的な広報というのを検討したいと思えます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、この内容で進めさせていただきたいと思えます。とにかく今日ご参集の委員の方々には、今お話のあったように一般の方になるべく沢山参加していただきたいと思えますので、口コミというのをご協力いただきたいと思えますし、それから、実行委員会に色々な形で参加していただければと思えますので、そういった情報についてもご協力をよろしくお願い致します。

糸長先生からは何かありますか。

#### ○糸長部会長

個別発表もポスターセッションもぜひ色々出していただきたいのですが、個別発表は30分くらいありますけれども発表したい関連の団体等に名乗りをあげていただければありがたいと思えますし、ぜひ実行委員会にも参加していただければと思えます。

#### ○羽山委員長

はい、ではよろしいでしょうか。

それでは(4)外部監査の検討について、事務局から説明をお願い致します。

#### 【報告事項4】外部監査の検討について

<事務局より資料12にもとづき説明>

○羽山委員長

ありがとうございます。だんだん色々と厳しくなってきましたけれども、いずれにしてもこういった方向で今年度中に見直しを図りたいということで考えております。何かご質問・ご意見ありますか。

<質疑応答> 無し

○羽山委員長

よろしいでしょうか。既に団体によっては、監査を外部の専門の事務所等に委託する方法をとっているところもあるようですけれども、当然金銭の問題も発生しますので、予算との兼ね合いもありますが、なるべく透明化していきたい、あるいは客観化していきたいと考えております。よろしいでしょうか。これについては幹事会でまずは原案を考えていただくということで進めたいと思います。

そうしましたら、(5)でおめでたい報告が2件ございます。

#### 【報告事項5】木平勇吉先生と鈴木雅一先生の表彰について

- ・木平先生 みどりの文化賞受賞
- ・鈴木先生 土砂災害防止功労者表彰

○羽山委員長

総会資料13-1 と 13-2 をご覧ください。まず、再生委員会の元委員長であります木平先生が「第29回みどりの文化賞」を受賞されまして、5月11日に秋篠宮家眞子内親王殿下より表彰状が授与されたと聞きました。大変羨ましいです。おめでとうございます。それから、同じく再生委員会で長年お世話になってまいりました鈴木雅一先生が「令和元年度 土砂災害防止功労者表彰」で功労者として表彰されたということで、今月の6日に国土交通大臣から表彰されました。つきましては、それぞれの業績、ご感想をご披露していただきたいと思います。木平先生よろしくお願ひ致します。

○木平委員

羽山委員長からご紹介いただきましてありがとうございます。この資料に、この賞の選考委員会が私を選考した理由が書いてあります。これは森林科学の未来を拓く非常に堅苦しい話なのですが、その話の中には丹沢自然再生への活動が明示してあります。このことについては、皆様のご協力をいただいた結果だと思っております。この授賞式と式典では皇族が見えるときの色々な形式があるのですが、今回の場合には眞子内親王様がお見えになりまして授与いただきましたが、そこではどんな研究をしたか等の雑談はしていません。式典の前に別の場所で偉い方が質問してくれる「お声がけ」という行事がありまして、私の場合も式典の前に眞子内親王から「丹沢の自然再生はどうなっていますか。」と丹

沢のパネルを見て聞いていただきました。これについて私からは2点、市民が協力して取り組んでいるということと、それから、この成果はまだまだ今すぐには出なくて将来かかるとは思いますが出るとは思いますと言うと、「頑張ってやってくださいね。」と、そういったことがありました。以上でございますけれども、どうも皆さんありがとうございました。

○羽山委員長

続きまして、鈴木先生お願い致します。

○鈴木委員

ご紹介いただきました鈴木です。6月6日に横須賀市の立派なホールで土砂災害防止全国の集いというのが開かれて、そこで賞状をいただきました。お手元の **総会資料 13-2** に功績概要というのが書いてあるのですが、4点目にあるのが平成25年10月の伊豆大島土石流災害で、死者・行方不明者39名を出した災害でございます。その時に緊急対策というのを作るということで東京都の猪瀬知事から依頼を受けました。出来上がって提出したときは小池知事だったのですけれども、その対策案ですが、緊急対策・短期対策・中長期対策の3つの時間軸を持つものでした。現在は地元のご理解ご協力のもとで、緊急対策と短期対策は終了しまして、中長期対策に移行する段階となっています。短期対策と中長期対策は、複数の案をあげて評価項目ごとに優劣を示し、総合評価を示すというやり方を致しました。これらの手法は、丹沢大山総合調査などで順応的管理などを色々と学んだ経験が土台となっています。丹沢大山の自然再生の活動に関わる皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

○羽山委員長

ありがとうございました。木平先生、鈴木先生、本当におめでとうございました。そうしましたら、(6) その他で事務局から何かありますか。

## 【その他】

○事務局 田村

事務局から一点、事務連絡いたします。先ほど羽山委員長から、今年12月14日の活動報告会のお話がありましたけれども、その実行委員会の開催につきましては、改めてメールにて皆様にお知らせしますので、その旨ご承知おきください。以上です。

○羽山委員長

ありがとうございます。あと委員の方々から何か、ご意見・情報提供でも結構ですがよろしいでしょうか。

それではこれもちまして本日の議事を終了させていただき、第20回丹沢大山自然再生委員会を閉会させていただきます。皆様本当にありがとうございました。

以上